

筑波大学大学院博士前期課程  
人間総合科学研究科生涯発達専攻  
リハビリテーションコース

平成 30 年度入学試験

論述試験問題

[注意]

1. 問題は、問題 1 と問題 2 の 2 問です。  
問題 1 は、(1) と (2) と (3) の 3 つの設問からなっています。すべての設問に答えてください。  
問題 2 は、(1) と (2) の 2 つの設問からなっています。すべての設問に答えてください。
2. 答案用紙は 600 字詰め 5 枚、下書き用紙は 5 枚あります。  
答案は、設問ごとに答案用紙 1 枚にまとめて記載してください。  
答案用紙の裏面は使用しないでください。  
下書き用紙は、自由にお使い下さい。
3. すべての答案用紙に必ず受験番号を記入してください。
4. 各答案用紙の欄外の左上に、問題番号[問題 1 (1)、問題 1 (2)、問題 1 (3)、問題 2 (1)、問題 2 (2)] を明記してください。
5. 試験終了後、問題用紙と下書き用紙も回収しますので、持ち帰らないでください。

## 問題 1

次頁の 2 つの表は、内閣府による「障害の表記のあり方に関するアンケート」の結果（2010 年 4 月実施）の一部です。

- (1) 表 1、表 2 から読み取れることを 600 字以内で述べなさい。
- (2) この表の結果をふまえて、障害の表記に関して、あなたの考えを 400 字程度で述べなさい。
- (3) 表 2 で、50 歳以上で「そう思う」と回答した人は 40 歳未満で「そう思わない」と回答した人と比較して何人多いか、計算式を示して答えなさい。

なお、調査方法は以下の通りである。

- 「20 歳代」、「30 歳代」、「40 歳代」、「50 歳代」、「60 歳代以上」の各年代のサンプルをそれぞれ 1,800 ずつ収集。かつ、「北海道」、「東北」、「関東」、「北陸」、「中部」、「近畿」、「中国」、「四国」、「九州・沖縄」の地域別のサンプルをそれぞれ 1,000 ずつ収集。
- インターネット登録モニターからのアンケート方式により実施。

表1 「障害」の「害」の字はイメージが悪く障害者差別につながるので、「障害」の表記を改めるべきとの意見があります。この意見についてどう思いますか。

	そう思う	そう思わない	どちらとも いえない
全体 (N=9000)	21.9%	43.0%	35.1%
男性 (N=5137)	22.0%	47.9%	30.1%
女性 (N=3863)	21.8%	36.4%	41.7%

表2 障害者の方々の中には、「障害」との表記で定着している、不都合を感じていない、さらには、障害者にとっての障害は社会や人々の意識の中にあるものである、などの理由で表記を改める必要はないとの意見もあります。この意見についてどう思いますか。

	そう思う	そう思わない	どちらとも いえない
全体 (N=9000)	42.6%	19.8%	37.6%
20-29 歳 (N=1800)	48.3%	17.7%	34.1%
30-39 歳 (N=1800)	42.4%	17.8%	39.8%
40-49 歳 (N=1800)	39.7%	19.9%	40.4%
50-59 歳 (N=1800)	39.4%	21.4%	39.2%
60 歳以上 (N=1800)	43.3%	22.3%	34.4%

(出典：内閣府 HP より引用、一部改変)

## 問題 2

別添の文章（5 頁～8 頁）は、大正 8 年に寺田寅彦が発表した『科学上の骨董趣味と温故知新』（『寺田寅彦全集第 2 巻』、岩波書店）の全文である（一部改変あり）。この文章を読んで、以下の（1）と（2）の設問に答えなさい。

- （1）この文章の要旨を 400 字程度で述べなさい。
  
- （2）これまでに読んだ論文や著作の中から、あなたの仕事や研究に最も影響を与えたものを選び、その内容とあなたが受けた影響を、600 字以内で述べなさい。ただし、題名などは正確でなくても結構です。

本文は著作権法により公開していません。